そのプラハでは昼間はご存じ共和国広場から「王の道」に沿ってプラハ城までの火薬塔・旧市街広場・天文時計・カレル橋・プラハ城と、観光名所まわりがぎっしりと詰まっていました。

疲れてたけど、夜分はみなさん着飾って彼の「**プラハの春　音楽祭**」(市民会館,スメタナホール)のコンサートなどに出かけました。

オロモーツ市はかつて仕事人間だったころの藤本さんにとって縁の深い町。当然知り人も多く「ドブリーデン！」(こんにちは！)と云いながら踊りや合唱団の地元友人を集めてくれました。

その一夜は「**国際交流イベント**」と称して、地元”ハナ―民族音楽団“によるスラブ民謡と踊りの会、対してこちらは藤本さんお得意の「南京玉すだれ」やドイツリード&ソプラノ独唱、最後は全員で賑やかに、「♪さくらぁ～♪さくらぁ～♪」で 遅くまで毎夜盛り上がりました。

聞けば,彼･藤本夫妻は現役から退いた後、チェコでコンサルタント事業を起こして日本とチェコを頻繁に往復しているという。彼は１９６８年の**プラハの春**事件時代に初めてチェコに入り、それ以降チェコとの縁が深まったそうです。

でも助詞変格が七ツ以上もあり、男語と女語とも違うとかのスラブ語系チェッコ語は苦手だ、という藤本さんは 奥様ともども主に多少ブロークンでもネイティブに近い得意な英語を繰って、今でも地球上どこにでも友達を作って出かけているようです。

帰国後 東京駅や蒲田での何回かの「お疲れ会」や「写真交換会」では いつもお元気活発に会を ”取り仕切って”おられたのに、あとでお聞きしたら 幸子夫人は病いをえて、間もなくご他界されたとか。

昨年二月が三回忌だったそうです。そして聞けば 今ははるか懐かしのアメリカの地で分骨され眠っておられるとか。

謹んでご冥福をお祈りします。

…合掌

ご夫君･健二会長からのお勧めでこの機会に思い出を雑文にしました。

Na shledanou　！

(ナ　スフレダノウ)さよなら！

(H27.1.31 記)